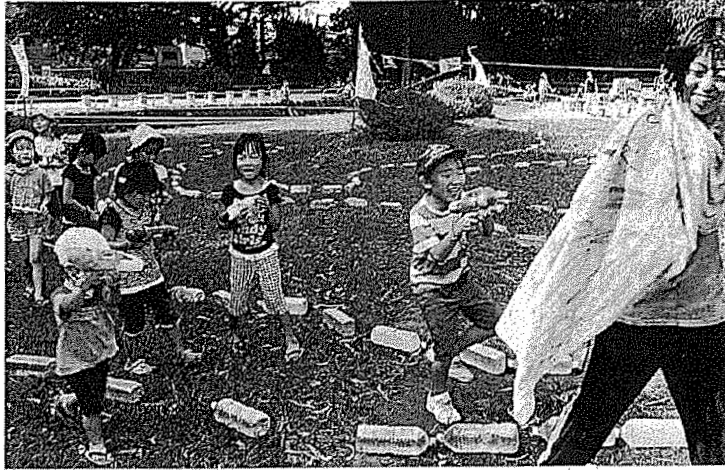


千葉日報

2015年(平成27年)7月21日(火曜日) (7)



色水の水鉄砲で学生のマントに色を塗る子どもたち=19日、松戸市

公園が一変、子どもたちのアート空間に。松戸市岩瀬の松戸中央公園で19日、聖徳大学を中心とした学生らが、遊びとアートの一日テーマパーク、「アートパーク8」を開催した。

公園で絵の具まみれ

松戸 学生主導アートパーク

公園内のあちこちに、段ボールの建物や布の壁が出て。子どもたちがはげやロ

ラー、自分の手や顔を使って絵の具を塗りたくった。木工でロボットを作ったり、思い思いの作品作りを楽しんでいた。

快晴のアートパーク日和、聖徳大学の大成哲雄ゼミ(児童学科)のワークシ

ョップでは、巨大なトーマポールを中心とした段ボールの街に、大人も子どもも一緒に色塗り。

なかなか家の中ではできない壁への塗りたくり。「全部楽しかった」と満足そうに娘の麻希ちゃん(5)と親子で遊んだ上杉浩司さん(45)は「めったにない経験です」と目を細めた。絵の具まみれの子もたちに追い立てられたゼミ生の安田祥穂さん(20)は「最初は遠慮してる子も、最後は手ぐさぐさ塗って楽しんで。みんなこいつこいつと

りたんですけどね」と顔に塗った絵の具をぬぐった。今年も千葉大園芸学部も参加。子どもたちが学生を水鉄砲で追いかけてながら

歓声を上げていた。今年で8年目。開催に尽力した大成准教授は「閑静で子どもの少ない公園だったが、回を重ねる内に子どもたちの声が増えてきた。学生でやることを楽しんでほしい」とは地域に出て子どもを育むイベントを見守った。



はげや手で思い思いに色塗り。創作活動を楽しむ子どもたち